

# 詩 3 ツ 露古

閣下。

薔薇咲き誇る五月のその正統派の文脈にぶっこむには少し乱暴だったか

薔薇よりも明らかに明らかな死を  
どうぞ  
閣下。

命とは恒常性のために働く力その複雑に絡み合った方向性の総体で  
あり存在はそれらの残像を認識することで初めて生じるつまり認識  
されない限り存在は出現しない

穴を覗いたら僕が見てた

## 咲いた咲いた

咲いた咲いた  
花の名あは何としよ  
色とりどりにかき集め  
わたしを飾ってくだしゃんせ  
恨みごとはちょっとだけにしどきやあ  
ああ咲いた咲いた  
ひなたでことっと笑ろてなあ  
わたしを忘れてくだしゃんせ